

地震が発生したときに、大切なポイントがあります。そのポイントを知って
いくと、自分の命、大切な人の命を守ることができます。

地震発生！！ 10のポイント

① 地震だ！まず身の安全を！！

揺れを感じたら、丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」
「倒れてこない」「移動してこない」場所で様子を見る。



② 落ちついて火の元確認、初期消火

火を使っていたら、あわてずに火の始末をする。

③ あわてた行動けがのもと

転倒した家具やガラスの破片に注意する。

④ 窓や戸を開け出口の確保

揺れがおさまった時の出口を確保する。

⑤ 門や塀には近寄らない

屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



⑥ 火災や津波確かな避難

身の危険を感じたら、避難場所に避難する。

⑦ 正しい情報、確かな行動

ラジオやテレビ、消防署、行政から正しい情報を得る。

⑧ 確かめ合おう、わが家の安全、隣の安否

わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。

⑨ 協力し合って救出、救護

転倒家具や家屋の下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護
する。

⑩ 避難前に安全確認、電気・ガス

避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避
難する。



赤：地震時の行動 青：地震直後の行動 緑：地震後の行動

救急車の適正な利用にご協力を！！

東京消防庁における救急出動件数は、依然として増加し続けており、令和元年中の救急出動件数は**825,929件**と**過去最大の件数**となりました。

これは、**1日およそ2,260件**、救急車が**約38秒に1回**出動していることとなります（図1参照）。

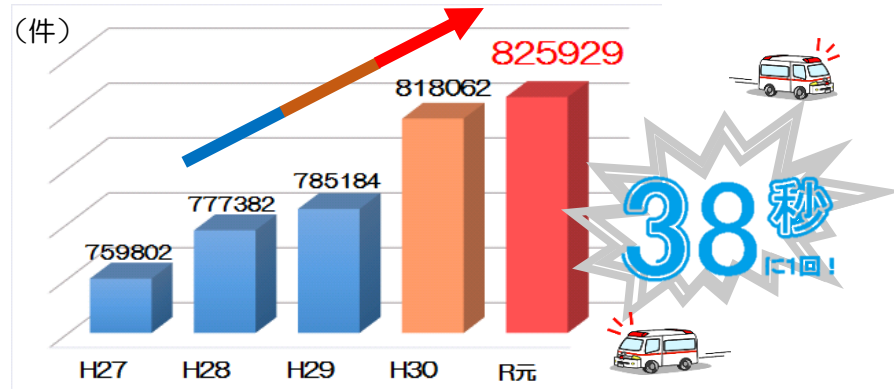


図1 年間救急出動件数（平成27年から令和元年）

東京消防庁では、119番通報を受けると、対応可能な最も近い救急車を出動させ、少しでも早く傷病者の元へ到着できるように努めています。しかし、救急車の数は限られており、119番通報が増加し近くの救急車が出動してしまうと、救急車が到着するまでの時間が長くなります。救急車の到着が遅れるほど、「救命曲線」（図2参照）を見てのとおり、命の危険が迫っている傷病者の助かる可能性が低下していきます。

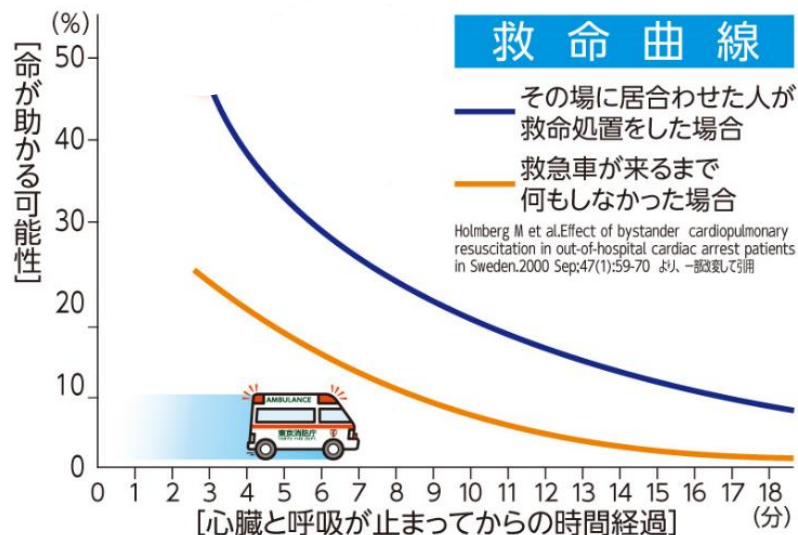


図2 救命曲線

日本堤消防署管内の災害状況

（令和2年9月14日現在）

火災件数	18件
焼損床面積	122㎡
救助件数	86件
救急件数	3861件

メルマガ配信希望者は日本堤消防署（本署）
警防課防災安全係までお問合せください。
（個人でも配信登録は可能です）

お問合せはこちらまで

日本堤消防署（本署） 03-3875-0119
日本堤消防署今戸出張所 03-3873-0119
日本堤消防署二天門出張所 03-3845-0119
E-mail nihondutumi2@tfd.metro.tokyo.jp